

分野	専門分野	授業科目	看護管理
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	3 年次前期
講師名 （時間・所属）	宮地由美子（9 時間・佐賀県医療センター好生館看護部長 認定看護管理者） 松本 尚子（6 時間・副学院長 認定看護管理者）		
< 科目設定理由 > ケアに関わる全ての者が担うものとして理解し、看護のマネジメントを学ぶ。 < 科目目標 > 看護ケアが看護サービスとして成り立つための体制について理解する。 < 授業内容 > ・宮地講師 1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護職のキャリアマネジメント 4 看護サービスのマネジメント 5 マネジメントに必要な知識と技術 ・松本講師 1 看護管理とは 2 看護を取り巻く諸制度			
< 授業の進め方 > 講義・演習			
< 受講要件 > 基礎看護学の科目を受講しておくこと。			
< テキスト > 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 医学書院			
< 参考文献 > やさしい看護者の倫理綱領 照林社 看護六法 新日本法規			
< 評価方法 > 学科試験			

分野	専門分野	授業科目	医療安全
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次 前期～3 年次後期
講師名 （時間・所属）	1 年次： 小池久美（15 時間・看護協会他非常勤講師 看護師） 3 年次： 福井 直子(11 時間・佐賀県医療センター好生館医療安全部看護師長) 佐藤 裕美(5 時間・佐賀県医療センター好生館医療安全部副看護師長) 山口 文美(6 時間・佐賀県医療センター好生館感染制御部副看護師長 感染管理認定看護師) 好生館職員(8 時間・佐賀県医療センター好生館臨床工学技士)		
＜科目設定理由＞ 対象や医療関係者の安全を守り、医療事故を防止するために、医療安全に関する基礎的知識と技術を学ぶ。 ＜科目目標＞ 医療安全を学ぶ重要性を理解し、医療現場に潜む危険を認識できる。 事故防止に対する具体的な対策について理解する。 ＜授業内容＞ 1 年次（15 時間） ・小池講師 1 医療安全を学ぶことの大切さ 2 事故防止の考え方 3 療養上の世話の事故防止 4 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 ・業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 5 医療安全とコミュニケーション ・不正確・不十分なコミュニケーションは事故の発生要因 ・事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3 年次（30 時間） ・福井講師 1 診療の補助の事故防止 ・総論、輸血業務、内服与薬業務、経管栄養、チューブ管理 2 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 ・間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 ・新人特有の危険な思い込みと行動パターン 3 医療安全とコミュニケーション ・医療事故防止のための患者とのコミュニケーション ・事故の未然防止上重要なコミュニケーション 4 看護師の労働安全衛生上の事故防止 ・ラテックスアレルギー、院内暴力 5 組織的な安全管理体制への取り組み 6 医療安全対策の国内外の潮流			

・佐藤講師 1 診療の補助の事故防止 ・注射業務と事故防止 ・山口講師 1 組織としての感染管理（感染予防 パンデミック防止） 2 看護師の労働安全衛生上の事故防止 ・職業感染 ・古我講師 1 診療の補助業務に伴う事故防止 ・医療機器の仕組みと安全な操作方法 ・医療機器使用に伴う危険と管理 （輸液ポンプ シリンジポンプ 心電図モニター 人工呼吸器 等）
< 講義の進め方 > 講義 演習 1 年次 15 時間 3 年次 30 時間
< 受講要件 > 1 年次…なし 3 年次…1 年次医療安全、基礎看護技術の講義を受講していること
< テキスト > 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 2 医療安全 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー膠原病感染症 医学書院 (山口講師) 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 (好生館職員)
< 参考文献 > なし
< 評価方法 > 1 年次：小池講師：学科試験 3 年次：福井、佐藤講師：学科試験 山口、好生館職員臨床工学士：評価なし

分野	専門分野	授業科目	災害看護・国際看護
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	3 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	内田陽一郎（7 時間・佐賀県医療センター好生館副看護師長/特定行為研修修了） 災害訓練現地講義（4 時間・好生館） 小倉 志帆（4 時間・日本学術振興会ケニア拠点副センター長）		
< 科目設定理由 > 頻発する災害における看護について学ぶ。 多様な状況にある様々な国や地域の人々に対する活動を学ぶ。 < 科目目標 > 災害についての知識を深め、災害医療の概念、災害看護の基本と看護師の役割を理解する。 国際社会の現状と国際看護活動について興味を持つ。 < 授業内容 > ・内田講師 1 災害の定義 2 災害の種類と特徴 3 災害医療の基本 4 災害看護の基本 ・災害が対象者及び医療者に対して心身に及ぼす影響 ・初期情報からアセスメント・トリアージ体制 ・災害訓練現地講義 - 好生館災害訓練参加 ・小倉講師 1 国際社会の現状 2 国際看護活動の支援を必要とする対象 3 国際看護活動を推進する人や機関 4 国際交流 ・異文化理解 < 授業の進め方 > 講義 演習：現地講義～好生館での災害訓練（4 時間） ※参加できなかった場合は佐賀空港災害訓練に参加 < 受講要件 > 基礎看護学の科目を受講していること。			

<テキスト> 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院
<参考文献> なし
<評価方法> 内田講師：学科試験 原講師：評価なし

分野	専門分野	授業科目	看護統合実践
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次後期～3 年次後期
講師名 （時間・所属）	1 年次 西村 弘子（ 5 時間・学院教員 看護師） 2 年次 西村 弘子（ 5 時間・学院教員 看護師） 3 年次 学院教員（35 時間・学院教員 看護師）		
< 科目設定理由 > 既習の知識・技術をもとに、臨床で遭遇する状況下での看護実践を段階的に学ぶ。 < 科目目標 > ・ 1 年次 日常生活援助を受ける患者の思いに気づき、心理的負担に配慮した援助方法について考える。 ・ 2 年次 既習の知識・技術を統合し、体験を通して能動的に学ぶことで臨床判断能力を高める。 ・ 3 年次 複数の患者に対し、時間管理をしながら優先順位を判断し、多重課題に対する実践力を身につける。 < 授業内容 > 1 臨床判断について 2 状況設定事例演習 1) 対象の状況に応じた日常生活援助の実施 2) 患者の病態生理に基づいた看護技術の実施 3) 多重課題演習 複数の患者に対する看護の実践 < 授業の進め方 > 講義、演習 < 受講要件 > なし < テキスト > なし < 参考文献 > なし < 評価方法 > 3 年次 技術試験、レポート			